

アメリカコハクチョウ（カモ科） 全長１２０センチ

１１月に入った。収穫作業も終わりを告げた田んぼは、青々としたひこばえが広がる眺めに一変した。

神宮寺大浦沼周辺の田んぼで、オオハクチョウとコハクチョウの群れ４０羽が見つかった。ほとんどが歩きながら首を下げ、夢中で餌を食べている。落穂や稲の根、柔らかいひこばえなどが御馳走なのでしょう。この群れの中に、アメリカコハクチョウ２羽が見つかった。

コハクチョウよりも嘴の黄色い部分がかなり小さく、目の前に僅かに残っている程度。この２羽はいつも寄り添いながら行動していることから、番ではないかと思われた。コハクチョウの亜種に分類され、大きな群れでたまたま見つかる程度です。



嘴の黒いハクチョウが、なぜアメリカコハクチョウと呼ばれるのだろうか。

１日に最初の群れが確認され、１週間後もほぼ同じ地域にとどまったままである。４０羽の初確認から、７日後は１００羽まで増加した。途中から仲間がどんどん増えていったからでしょう。

夕方になると次々と田んぼを飛び立ち、大浦沼に入っていた。沼は、夜間の天敵から身を守る場所なのです。



柔らかな草の中に群れるハクチョウたち。



群れの中にいた２羽のアメリカコハクチョウ。

大浦沼周辺は餌が豊富にある田んぼと、安全が確保される沼がある貴重な中継地となっているのです。ハクチョウ類だけでなく、珍しい野鳥も現れることが多い大浦沼。目が離せない日々がまだまだ続きそうです。



ピッタリと息が合う。



手前にいるコハクチョウの嘴と比べると違いがはっきり。